

## 会誌委員会委員長挨拶

2020 年度 会誌委員会委員長 兩宮智浩

学会誌は学会の活動を伝える媒体の一つです。ヒューマンインタフェース学会では学会誌を年に 4 回発行し、会員の皆さんに役立つ情報を提供することを使命としています。学会創設時から 20 年以上、この使命を果たすべく会誌は変化し続けてきました。たとえば、リニューアルワーキンググループによる議論や試行を経て、昨年からフルカラー化となりました。文字主体が写真中心へと内容も変わりつつあります。一方、速報性で利のある電子媒体とどのように連携していくかも重要な課題です。

本学会は多種多様な学問領域をもつ研究者から成り立っており、その興味や研究手法の範囲も多岐に亘っています。パーソナライズが進み、いわゆるフィルターバブルによって自分の興味のある記事しか読まなくなれば、想定外の化学反応が起きる絶好の機会を逃すかもしれません。年 4 回の発行数の中でできるだけ濃密に、異分野のスタイルを垣間見ること、ひらめきや気付きをあたえる場を仕込むことが会誌の役割と考えています。そのためには会誌委員だけでなく、会員の皆様と議論していく必要があると考えています。会誌に対する意見を募集は先代の会誌委員長からこれまで多くの取り組みが試行されて来ましたが、しかし、残念ながら実際にはほとんど来ていないようです。会誌委員会の予測ではなく、あるべき目標値に近づくための方位磁石が必要で、それは「読者の声」に他なりません。封筒を破いて、毎号目を通したくなる、感想や要望をチャンネルに依らず返信したくなる会誌にしていきたいと思えます。かくいう私も会誌委員会に関わるまで、もつといえればかなり最近まで興味のある記事以外はほとんど読んでいませんでした。その意味でも当事者として会誌委員に加わって一緒に会誌を作ってくれるメンバーも募集しています。個人的にはいつものメンバー・いつもの記事ではなく、様々な会員が会誌委員として関わる形態にできないかと思案しております。多様性のない個体は変化の激しい世界では滅びます。「新しい企画の提案に柔軟に対応します！」と聞いてこれをチャンスとと思っていただける方はぜひご連絡ください。

フルカラー化した会誌は表紙を含めて、これまでの会誌と異なる印象ではないでしょうか。カラー化の経緯は 21 巻 4 号ご挨拶にあります。今回の大幅な見直しに対して会員の皆さまから(見直し前との違いを覚えているうちに)感想を頂けますと幸いです。手作り感あふれる会誌ゆえ、クオリティコントロールなど課題は山積みですが、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。